

01 アートマネジメントで花開く創作や表現の「タネ」

東京の芸術大学でアートマネジメントを学び、生まれ故郷である浜松に戻ってきた吉田菜穂さん。自身の出産をきっかけに、子育てをする人々が子どもと一緒に参加できる音楽イベントを企画するなど、パワフルな活動を展開している吉田さんに、地域の人々と多様なコミュニティと共に表現の場をつくってきた経験と、浜松での新たな活動についてお聞きしました。



1	2	5
3	4	

1,2. おんがくしゃわー!!! 第1弾「アラビアンダンスの世界」(2024年、浜松市鴨江アートセンター) 3. おんがくしゃわー!!! 第2弾「2台のマリンパ生演奏」(2024年、浜松市天竜壬生ホール) 4. おんがくしゃわー!!! 第3弾「みんなでラテン・カリビアンダンス!」(2025年、クリエイート浜松) 5. 東京での活動「フィリピンからの、ひとりひとり マキララー知り、会い、踊るー」より「フィリパビポ!!!」(2016年、イミグレーション・ミュージアム・東京) 撮影: 富田了平

東京でのアートマネジメントとの出会い

高校時代、勉強机の正面に「東京」と書いた紙を貼って猛烈に受験勉強していました。都会で多様な表現活動に出会い、刺激的な環境に身を浸してみたいと憧れていたのです。念願叶って進学した大学では、既存の芸術活動の概念に捉われず、地域に暮らす人々とアーティストが相互に関係しながら創作活動を展開していく「アートプロジェクト」と呼ばれる活動に出会い、その企画運営に夢中になりました。子ども創作教室(※1)のスタッフをしたり、商店街でリヤカーに乗せた窯で焼き物をする(※2)ために町内会にご挨拶に行ったり、オリジナルの盆踊りの作詞のためにその地域の方たちの思い出話を聞きに行ったり(※3)…。大学院生時代には、カトリック教会に集うフィリピン人女性たちと交流を深め、彼女たちのライフストーリーや日本で生活する上での知恵や習慣を題材に、映像作品上映会・ワークショップ・パーティーで構成されるイベント(※4)を企画しました。様々な属性の人々と関わるなかで、創作や表現の「タネ」は誰しもの日常生活に眠っていて、専門的な知識や文化施設がなくても花開くのだ、と感じていました。そして、私が専攻していた「アートマネジメント」とは、その手助けをする役割なのかもしれない、とも。



吉田菜穂

1991年浜松市生まれ。東京藝術大学音楽環境創造科卒業・同大学院修了。アートマネジメントを専攻し、在学中から都内で展開する複数のアートプロジェクトの企画運営に関わる。2021年にUターン移住。現在は「新川モール」の指定管理をおこなう株式会社HACKに勤務し、月刊広報紙「いこうか!高架下」の作成や自主イベントの企画運営に携わっている。ミュージカルと踊ることが好き。

※1 谷中のおかって子ども創作教室「ぐるぐるミックス」
※2 きむらとしろうじんじんの「野点」
※3 アートアクセスあだち 音まち千住の縁「Memorial Rebirth 千住」
※4 アートアクセスあだち 音まち千住の縁
「フィリピンからの、ひとりひとり マキララー 知り、会い、踊るー」
※5 あかちゃんもおとなもおとをあびよう おんがくしゃわー!!!
(主催: 吉田菜穂) | 令和6年度浜松市創造都市推進事業補助金採択事業]

02 笹埜八郎インタビュー ~「美術史すごろく」であそびながら~

「美術史すごろく」(※)であそびながら、アーティスト・イン・レジデンス(以下AIR)で浜松にて滞在制作したアーティストの笹埜八郎さんにインタビューをしました。AIR期間中の展覧会「かめえの七賢」と「美術史すごろく」に貫かれる共通点、それは笹埜さんが「誰かの表現を丁寧に観る」という姿勢に関心を寄せているということです。



スタッフ(以下ス):
浜松での滞在制作はどうでしたか?

笹埜(以下サ):
娘がまだ小さいときに浜松の公園に遊びに来たんですが、花壇に人形があって、花がきれいな都市だという印象がありました。花壇の人形にはその花壇をつくっている人の愛着や、庭を楽しくしようという思いが感じられます。そういうじんわりあったかい美しさが好き、気になるんです。アートセンターのようないろいろな方がくる場所で花壇の人形のような作品を作ることに意味があると思い、絵画シリーズ「かめえの七賢」ができあがりました。七賢は花壇の「7人のこびと」の人形から連想したものなんです(笑)

ス:(笑) 遊び心満載のおおらかな作品群でした。制作室の使い心地はどうでしたか?

サ: 近所の小学生が来るのがおもしろかったですね。ロビーのソファでゲームや宿題をしたりして過ごしているようでした。制作室の扉を開いていると見に来る子どももいて。来ない子もいて。自分が絵を描いていてもお構いなしで、人それぞれ、なんとなく一緒にいるという空間がおもしろい。常連の子どもが他の子どもを制作室に連れてくるんですよ。「ここ、なんかね、つくってる人だよ」とか言って紹介してくれるんです。そういう雰囲気がいいですね。子どもも大人も一緒にです。

文化的な体験に意識がある親御さんは美術館などに子どもを連れていくけど、そうでなければアートに触れられない子どももいます。近所のアートセンターに行けば、作品があり、作家がいる、そういう場があることはいいと思います。教育の現場に関わっていたので、このようなことも考えていました。



笹埜八郎(画家)

自分はどのように周りの世界や人と関わることができるのか?誰もが表現すること、とくに絵を描くことの意味は何か?表現に気づき合うことはどのように可能か?等の問題を意識して美術の活動をしています。身近な景色と、そこから呼び起こされる時間空間を超えた様々なイメージのつながりを意識して制作。自分の展示が、年齢や文化背景その他さまざまな違いを持つ人たちの交わるターミナルのような場になることが理想。美術に関わって、制作をしたり、他者の作品を体験したり、語り合ったりすることで、様々な境界を越えた新しい世界が広がればよいと考えている。

03 GOKINJO MAP だれかと一緒にいきたい場所

GOKINJO MAPでは、主に鴨江アートセンターから歩いていける範囲で、当館ゆかりの皆さんにおすすすめスポットを紹介してもらっています。今回は「だれかと一緒にいきたい場所」の紹介です。地図にはこれまでに紹介したスポットも載っています。気になる場所をついたら、ぜひ足を運んでみてください。

1. 自己紹介をお願いします。
2. 紹介したい場所について教えてください。
3. そこに行つて、だれと一緒にどんなことをしたいですか。



C 浜松市立中央図書館
若林芳樹

1. 地図と地理の研究・教育に従事しています。昨年3月まで東京の大学で教えていましたが、定年退職を機に浜松に移住しています。2. 図書館の施設だけでなく、ここは台地と低地の境目という立地がすばらしいです。東側入口の階段から町が一望でき、駐車場からは浜松城が正面に望めます。3. ここを浜松の成り立ちを知るのスタート地点にして、タモリさんと街歩きをしてみたいです。たぶん台地の端にある坂道は気に入ってもらえると思います。

D みかわやコトバコ
大端将
Instagram: @shoohatathinx

1. 複合拠点「みかわやコトバコ」管理人。空き家再生、優良な地域工務店さんとの連携など住宅業界の健全化をテーマに仕事しています。2. 分かりづらさに定評がある僕たちの拠点です。製本、英語、野菜、食堂、洋裁などコンテンツが多様ゆえ、すみません。3. いつ行っても誰かしら面白い人たちがいるので、未踏の方々をお連れして紹介できたら。意気投合して新しい動きが生まれるのを見るのが楽しいです。

E OORT CLOUD COFFEE
滝野ますみ
ウェブサイト: http://neonsound.co.jp/

1. サウンドデザイナー、フォーリーアーティストとしてアニメーションや映画、CMなどの効果音制作や音楽プロデュースをしています。2. 四ツ池公園の近くにあるコーヒー屋さんです。コーヒーが美味しくてお店の周りは緑がたくさんあって気持ちの良い場所です。3. 絵本がたくさん置いてあるのだから、未踏の方々をお連れして紹介できたら。意気投合して新しい動きが生まれるのを見るのが楽しいです。



A 東北冷麺王
石山律
ウェブサイト: https://cslets.net/

1. 山梨、東京、秋田と移動して23年7月に浜松に引っ越ししました。認定NPO法人クリエイティブサポートレッツのスタッフです。2. 第一通り駅近くの大衆中華。一生かけても頼みきれない数のメニューの中から必ず頼みたいのは、ラム串とインゲン(の強火炒めです)。3. 中華は人数!関係性に関わらず大勢で行って、人の頼んだ知らないメニューを楽しみたいです。店の賑やかさもまた居心地が良いです。



B カフェテラスサイモン
マルセロ カズオ(Dogzgero)
撮影: Laura Rodriguez

1. ブラジルのサンパウロ州グアルーリョス生まれ、Cinemateca Brasileiraで映画史のコースを卒業。現在ドキュメンタリー『Irrequietos』を制作中。2. 浜松の老舗喫茶店。音楽家が集まる喫茶店としてもピリヤードができる喫茶店としても有名で、生演奏も聴けます。3. 音楽が好きなら、興味がある人、みんなと行きたい場所です。